

## 2018年2月実績概要(メモ)

(2018. 3. 20)

本年春の誘導品での定修もはじまりつつあり、多くの製品で生産は前年割れ。

## 1. 生産動向

イ) エチレン 522,000トン

前月比 ▲10.7% (▲62,400トン)

前年同月比 +1.4% (+7,100トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲9.9%	-
定修要因等	-	-
能力増減	-	-
稼働率変動	▲0.8%	+1.4%
生産増減率	▲10.7%	+1.4%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月98.8%→ 当月97.9% ←前年同月96.6%  
定修プラント：前月なし → 当月なし ← 前年同月なし

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、主に日数の減少からLD、HD、SM、塩ビモノマー、EG、AN、SBR、BR、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの15品目がマイナス。PS、アセトアルデヒドのみが稼働率要因からプラスとなった。

前年比では、稼働率要因と定修規模差等からLD、HD、PS、SBR、BRなどの10品目がマイナス。SM、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、AN、ベンゼンなどの7品目はプラスとなった。

## 2. 樹脂の生産・出荷状況(LD、HD、PP、PS)

イ) 生産

前月比では、稼働日数の減少に加えて定修規模の増加からLD、HDは大幅なマイナスとなった。PPは日数減に対して稼働率等の要因が作用しLD、HDと比べてマイナス幅は小幅となった。PSは前月の生産がやや低めであったこともあり当月はプラスとなった。

前年比では、定修規模差や稼働率要因等から4樹脂揃ってのマイナスとなり、特にLDのマイナス幅が大きくなった。

ロ) 国内出荷

前月比では、LDではラミネート及びフィルム分野、HDはフィルム分野を中心とした出荷減少によりマイナスとなった。一方、PPでは射出成形分野、フィルム分野の出荷が増加しプラス、PSは前月の出荷がやや弱含んだこともあり当月はプラスとなった。

前年比では、前年の出荷水準が幾分高めであったこと、また、在庫積み増しが進行していることもあり4樹脂ともにマイナスとなった。

ハ) 輸出

輸出は一段と低位な状態となっている。前月比では数量の少ないPSのみがプラス。この他の3樹脂はマイナスとなった。

前年比では4樹脂ともにマイナスとなり、特にポリオレフィン3樹脂では大幅なマイナスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、HD、PP、PSで増加、LDはやや減少した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLD、HD、PPともに上昇し、PSは低下した。在庫水準としては、LD、HD、PPで3カ月超えと、定修を控えて数値上高めとなっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率(単位:ヶ月)	
		1月末	2月末
LD	▲3,700	3.3	3.6
HD	+3,100	2.9	3.3
PP	+23,100	2.8	3.0
PS	+3,600	1.5	1.4

以上